



今年も残り1ヵ月となり、本格的な寒さと共に冬の感染症がやって来る季節となりました。インフルエンザに加え、胃腸炎、RSウイルスなどの感染症も増えてきます。気温の低下や乾燥が大好きなウイルスは感染力も強く、広がりやすい傾向にあります。暖房を使用するこの時期、お部屋が乾燥し風邪も引きやすくなります。換気や加湿を意識して行う事が感染症予防に繋がります！これからの楽しいクリスマスやお正月を元気に過ごせるといいですね(*^~^*)インフルエンザによる異常行動がニュースになっていました。厚生労働省から引用しましたのでご参照ください。

今年度はすでにインフルエンザが流行し始めていますが、A型に感染した後、同じシーズン中にB型に感染してしまうこともあり注意が必要です。改めてインフルエンザの出停期間の確認をお願い致します。

☆インフルエンザに罹患してしまったら…

出席停止期間は発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後3日を経過するまでです。

※厚生労働省の「保育所における感染症対策ガイドライン」に基づき、上記の①、②の両方が揃わないと、登園することができません。ご理解とご協力をお願いします。

*家庭でできる予防とケア



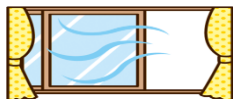
石けんで手洗いうがい



咳エチケットと外出先でのマスク



十分な加湿
湿度60%が目安！



適度に換気し空気
の入れ替え
※換気は短めに。低温低湿はウイルスが好む環境になり逆効果です。



発熱時は、動脈の通る、首の付け根や脇の下や足の付け根を冷やします。寒気がある時は保温して、熱が上がりきってから冷やします。

インフルエンザの患者さん・ご家族・周囲の方々へ

インフルエンザにかかった時は、飛び降りなどの異常行動をおこすおそれがあります。
特に発熱から2日間は要注意！
窓の鍵を確実にかけるなど、異常行動に備えた対策を徹底してください。

●異常行動による転落等の事故を防ぐためのお願い

- インフルエンザの患者さんでは、**抗インフルエンザウイルス薬の服用の有無や種類にかかわらず**、異常行動に関連すると考えられる転落死等が報告されています。
- 異常行動は、**①就学以降の小児・未成年者の男性で報告が多い(女性でも発現する)**
②発熱から2日間以内に発現することが多いことが知られています。

異常行動の例

- 突然立ち上がって部屋から出ようとする
- 興奮して窓を開けてベランダに出て、飛び降りようとする
- 人に襲われる感覚を覚え、外に走り出す

※突然笑い出し、階段を駆け上がろうとする ※自宅から出て外を歩いていて、話しかけても反応しない
※変なことを言い出し、泣きながら部屋の中を動き回る など

万が一の転落等の事故を防止するため、発熱から少なくとも2日間は、就寝中を含め、特に小児・未成年者が容易に住居外へ飛び出さないために、例えば、以下のような対策を講じてください。

- 玄関や全ての部屋の窓を確実に施錠する(内鍵、チェーンロック、補助錠がある場合は、その活用を含む)
- 窓に柵子のある部屋がある場合は、その部屋で寝かせる
- ベランダに面していない部屋で寝かせる
- 一戸建てにお住まいの場合は、できる限り1階で寝かせる

厚生労働省

食事中の誤嚥の対応

毎年のように子どもが食べ物を詰まらせ死亡するニュースを耳にしますね。普段起こりやすい事故だからこそ、事故を防ぐ対策、起こった時の対処法をしっかりと知っておき、いざという時に即行動に移せるようにしておくことが大切です。



喉詰まりが起こりやすい食べ物は細かく切るなど与え方を工夫しましょう。

また、風邪で痰がからむ時等いつもは食べられる大きさでも詰まる恐れがあることを把握しておきましょう。

窒息は食べ物だけでなく、おもちゃ等が喉をふさいで起こることもあります。直径3.9 cm以下のものは、子どもの口に入る危険があることを知っておきましょう。トイレットペーパーの芯の直径が丁度その大きさです。トイレットペーパーの芯を通る大きさのものは子どもの近くに置かないようにしましょう。



誤嚥時の対処法

